

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 61人 国語B 61人

② 算数A 61人 算数B 61人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

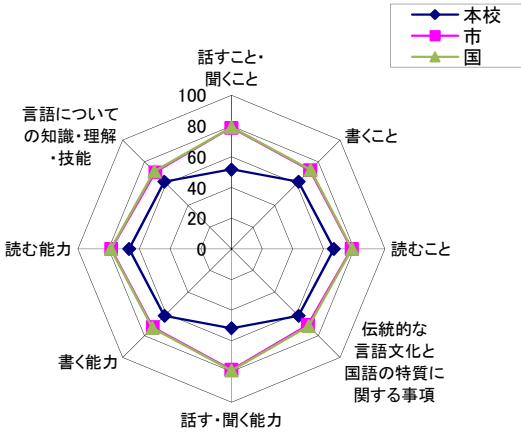
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

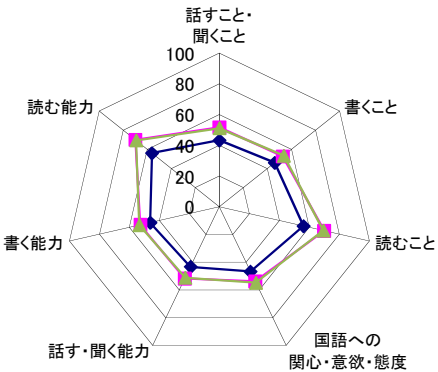
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	51.7	78.8	79.2
	書くこと	61.7	72.4	72.8
	読むこと	66.7	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.8	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	51.7	78.8	79.2
	書く能力	61.7	72.4	72.8
	読む能力	66.7	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	61.8	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	43.3	51.7	51.1
	書くこと	46.1	52.7	53.4
	読むこと	56.1	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	46.7	53.8	54.7
	話す・聞く能力	43.3	51.7	51.1
	書く能力	46.1	52.7	53.4
	読む能力	56.1	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

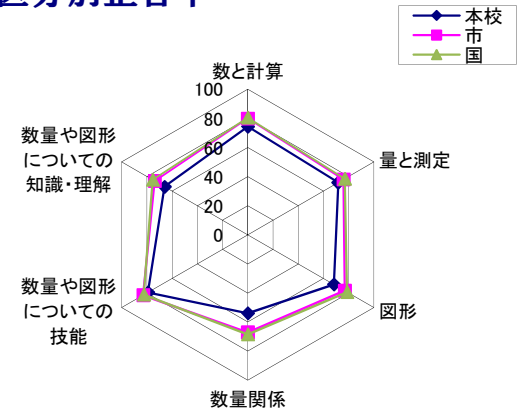
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●設定された話し合いの場面で、どのような話し合いが進められているかを選択する問題において、適切な状況把握を行い、情報を関連付けながら話し合うことができない。	・話し合いの場面で、何をどのように話し合うのか明確にしてから活動できるようにする。 ・話し合いの流れを逐次意識付けができるようにする。そのために、発言がテーマ・観点に沿ったものかメモやノートに書いて整理しながら話し合いを進める習慣を付けさせる。 ・ペアやグループでの話し合い活動を学習の中に取り入れ指導を行う。
書くこと	○目的や意図に応じて、書く事柄を整理したりグラフを活用して作文したりする問題は県や全国の平均とほぼ同程度の正答率であった。 ●書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する問題や目的に応じて自分の考えをまとめて書くような問題では、正答率が県や全国の平均よりも20ポイント程度低かった。	・自分の考えを書く場面において、書く順序や目的に合った根拠を示してあげることで、ねらいに応じた文章構成力を身に付けさせる。 ・読み手の視点に立って書くことを意識させるために、グループやペアで内容や構成、文章を見直したり評価したりする機会を設定する。 ・日記や行事での感想文や手紙作成といった書く機会を意図的に増やすようにする。
読むこと	●目的に応じて資料を選択して読んだり、複数の資料を比べて情報を読み取ったりする問題において、正答率が全国や県に比べて大きく差がある。 ●物語の登場人物の人物像を、複数の叙述を基に捉えるような問題の正答率が県や全国と比べて低い。	・朝の読書の時間や音読の場面を大切にし、読むことの時間的な量を確保する。 ・主語や述語に意識を向けさせて読むことを徹底し、物語文の読み取りに効果的なプリントを活用するなど支援する。 ・学校の行事や他教科との関連を図りながら、必然性をもって(課題を解決するために読むなど)本や資料を読む機会を設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を正しく書いたり正しく読んだりする力は、全国や県と同程度の力がついてきている。 ●ローマ字を正しく書いたり、正しく読んだりする力が、全国や県より低い。	・漢字の練習やテストなどをこれまで通り続けて、言語力の定着を図る。 ・ローマ字の読み書きについては、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットなどローマ字が使われている場面を授業の中でも取り上げ、必然性を感じるように指導する。また、他教科との関連を図りながら、パソコンでローマ字入力する場面なども取り入れながら丁寧に指導していく。

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

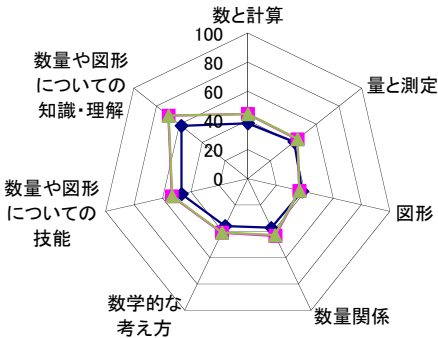
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	74.2	79.9	80.5
	量と測定	71.7	75.9	77.0
	図形	68.3	76.9	78.8
	数量関係	53.9	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	79.3	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	66.1	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	38.1	44.5	44.4
	量と測定	40.7	43.5	43.7
	図形	38.3	36.2	36.3
	数量関係	37.2	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	35.9	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	46.7	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	58.3	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○単純な四則計算については、計算方法がある程度理解しており、正答率が高かった。 ●示された式の中身を理解して数値について記述したり、示された場面を理解して答えの理由を記述したりする問題の正答率が県や全国と比較して低かった。	・計算ドリルの反復などを通して、基礎的な計算力の定着を図る。 ・友達の立てた式の意味を考え、説明させるような場面を意図的に取り入れるようにする。 ・日常の場面と関連付け主体的に関わる場面を設け、計算を見積もること、計算の結果を振り返って確かめることを身に付けることができるようにする。
量と測定	○正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める正しい式を選択する問題での正答率が高い。 ●正方形の面積を求める式について、縦と横の長さの変化が面積に与える影響を記述する問題での正答率が県や全国に比べてかなり低い。	・友達や教科書の説明を正しく解釈するために、指導者が言葉を追加するようにしたり、説明をていねいに行ったりする。 ・各図形の面積を求める式についての理解度を高めるために、動画やイラスト資料を定期的に活用する。 ・具体物を用いた活動を取り入れ、実感できるようにする。 ・図形と式を関連付けて、式の意味を友達に説明する活動を取り入れていく。
図形	○図形の構成要素に着目して、図形を構成する問題の正答率が高い。 ●正方形に内接する円の半径について理解したり、直方体での面と面の位置関係について把握したりする問題の正答率が県や全国の平均よりも低い。	・円に関する基礎的な知識について確認できる問題に取り組み、知識の定着を図る。 ・立体については、実際に作って確かめる活動などを取り入れたり、デジタル教科書を用いて視覚的に理解しやすいようにする。
数量関係	○示された式に当てはめて数値を求める問題の正答率は県や全国の平均と同程度であった。 ●グラフから数値を読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を記述する問題において正答率が低いことに加え、無回答の割合が多かった。	・グラフや表と式を関連付ける活動を教科に関わらず意識して取り組ませるようにする。 ・単純な問題でも、理由や根拠を記述する場面をできる限り取り入れることで苦手意識をなくさせる。 ・割合について理解できるようにするために、日常において増量や値引きなどの場面を取り上げ、基準量と比較量の関係を正しく捉えられるようにする。また、授業においてはそれらの関係を数直線などに表すことを繰り返し指導し身に付けさせていく。

宇都宮市立西が岡小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○国語や算数に対する興味や関心は、全国や県の回答に比べて肯定的な回答割合が高く、学習そのものへの意識は良好だと考えられる。

○起床時間や就寝時間に関する質問項目では、安定している児童割合が高い。これまでの調査と比較して生活が落ち着いている児童が多くなったといえる。

●生活が安定している児童が増えた一方、起床時間や朝食の摂取の有無が曖昧である児童割合が若干高く、生活リズムの格差がわかる。家庭への声掛けや、子どもたちに生活リズムを振り返らせる場を定期的にもち、支援していきたい。

●学校の授業以外に1日当たりに学習する時間に関する質問では、「1時間より少ない」または「ほとんどしない」と回答した児童の割合が50ポイントを超えており、全国や県に比べてかなり高くなっている。本校では、自主学習を全校として取り組んでいるので、改めてその重要性について気付かせるとともに、模範的な取り組みなどについて称賛するなど自主学習の奨励を行う。

●予習復習に関する質問では、家で予習復習ともに「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童が60ポイント前後になっている。予習復習の重要性について、客観的なデータを使用して理解させたり、宿題に予習復習に関するものを取り入れることで、自然に取り組みを身に付けられるようにしたい。